

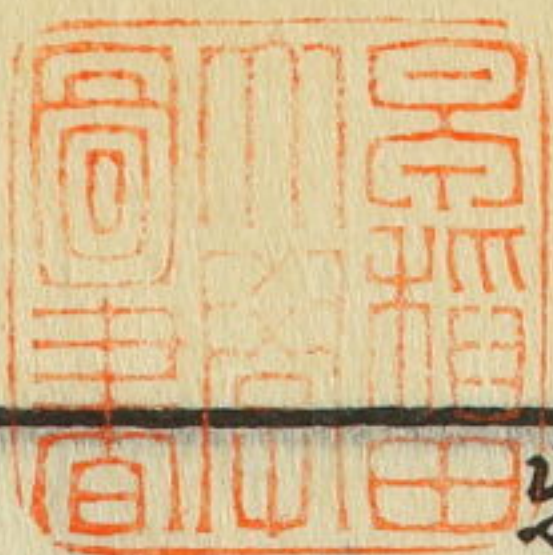


物草志郎
五

~13
4269
5



113
4269
5



物草太郎卷之五

第九回

野狐批帛威記怨
孤鴻避弓繳遠害



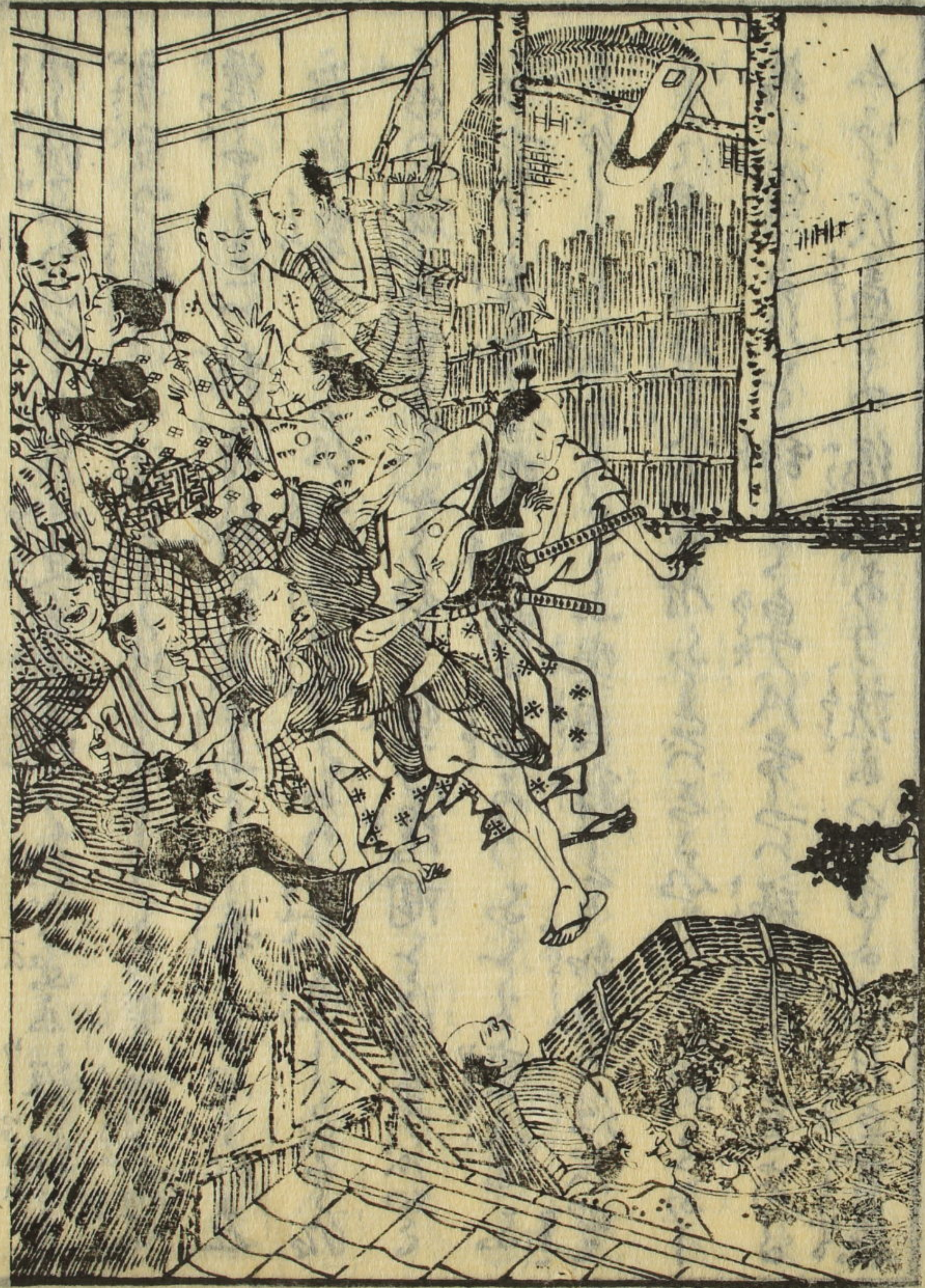
其使^{もつ}ら^らの^ら後^の見^見其^其君^君と^と知^知ら^らの^の友^友と^と思^思は^はる^るお
見^見其^其人^人と^と知^知る^る人^人鳥^鳥度^度哉^哉左^左府^府の^の壁^壁良^良と^と思^思は^はる^る是^是
浮^浮浪^浪破^破落^落戸^戸の^の刀^刀後^後一^一時^時の^の僥^僥倖^倖を^を得^得る^るを^を喜^喜ぶ^ぶは^はら^ら
毒^毒を^を飲^飲み^みて^て主^主の^の権^権貴^貴を^を恨^恨む^む卑^卑れ^れと^と欺^欺
負^負弱^弱は^は凌^凌辱^辱一^一個^個柄^柄用^用の^の士^士も^も不^不破^破と^と進^進む^むを^を喜^喜ぶ^ぶ
あり^{あり}樂^樂む^む本^本曆^曆は^はた^たら^らめ^める^るを^を強^強忍^忍の^の士^士良^良の^のよ^よあり^{あり}が
劣^劣ら^らり^り聖^聖業^業は^は好^好ま^まん^ん棒^棒と^とは^はら^らひ^ひ相^相撲^撲と^と好^好む^む隣^隣

本林
義夫
寄贈

91-2150

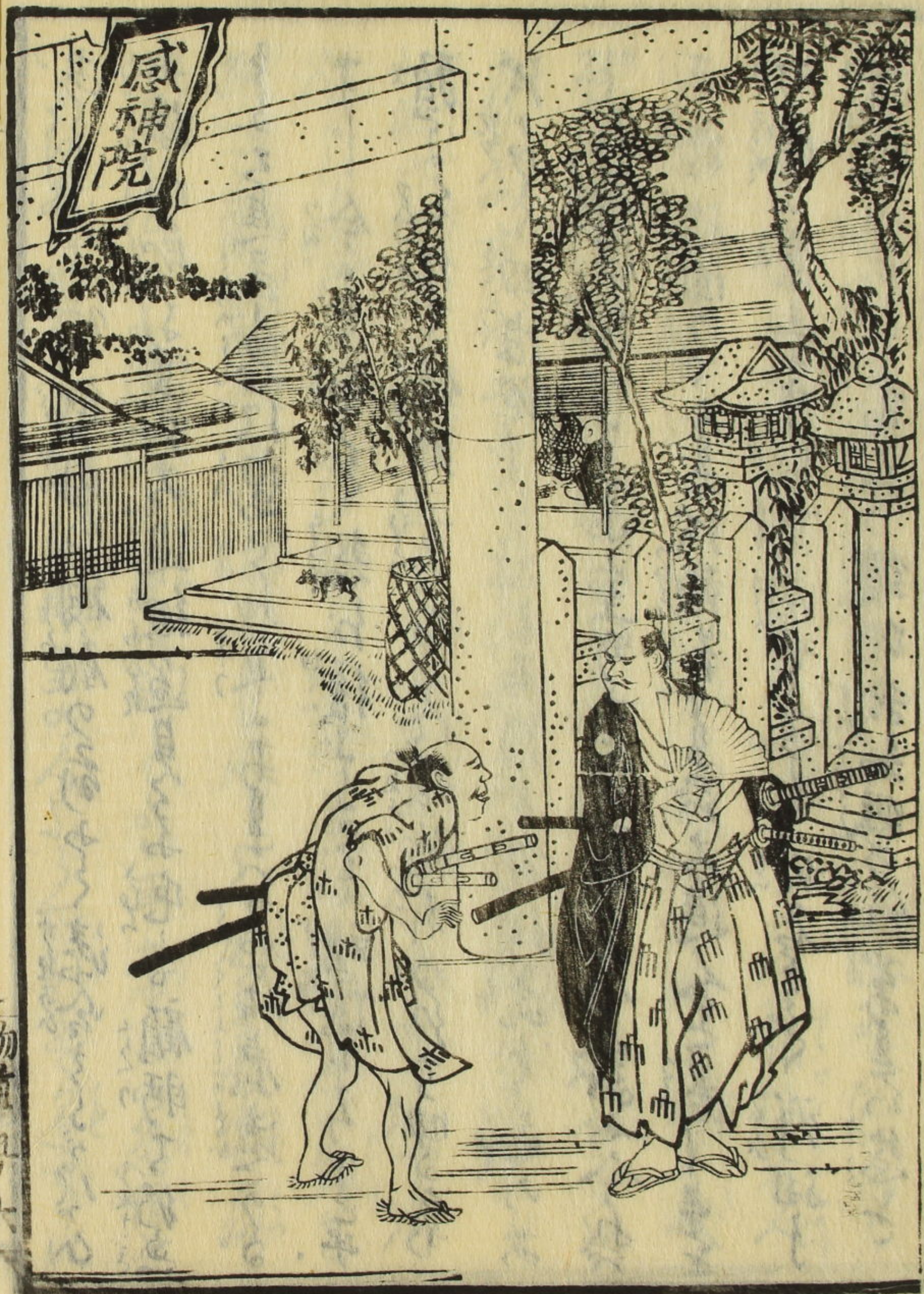
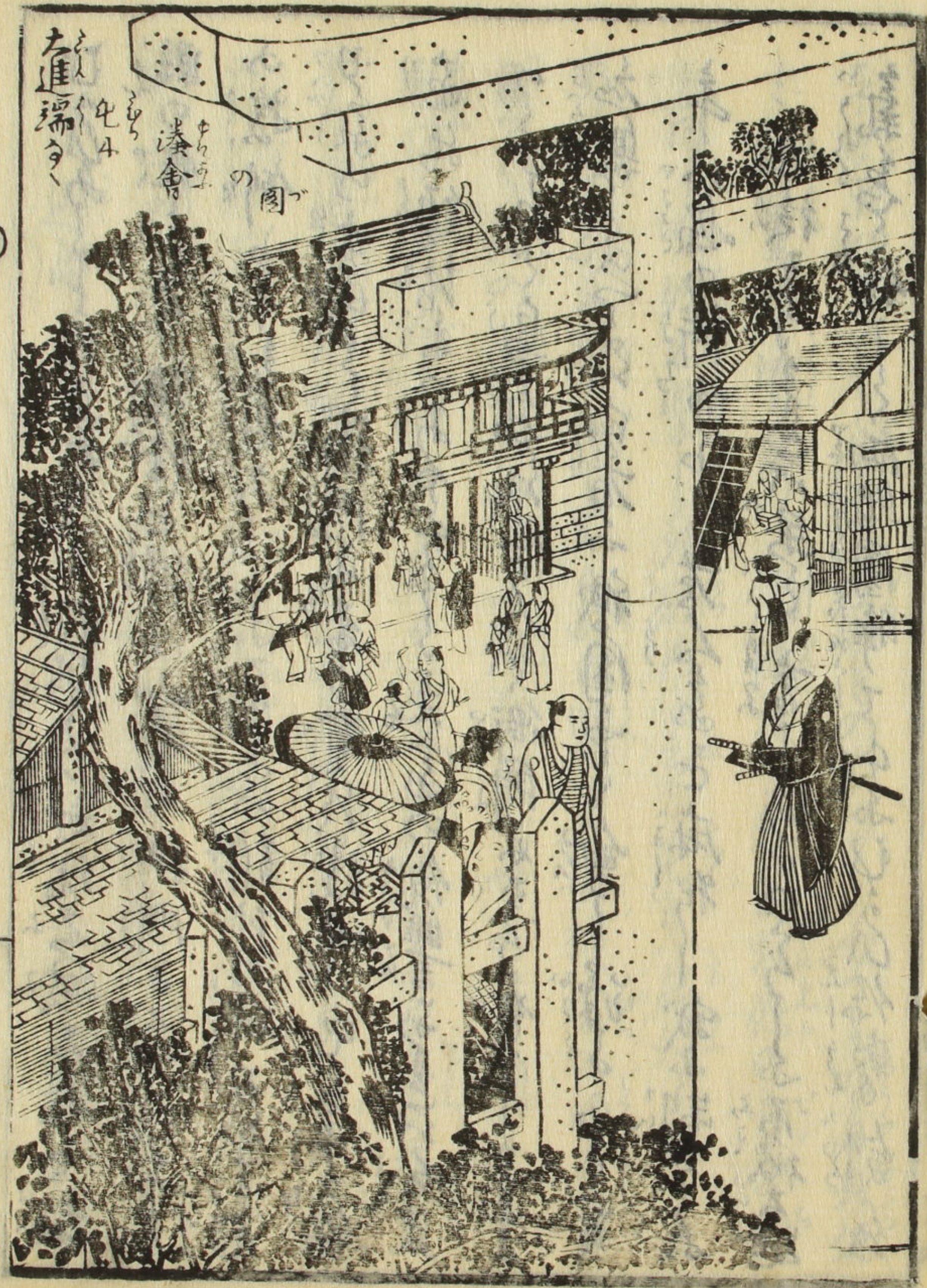
迎の子見と能須のこゝあゝの自に好きあゝ
と独りこゝ成お的の一郷の男女衆成是悪
か一父母深く憂愁と衆を暴民制とて
其習の性もあつてもも父母の言を聞ひて
も誠情の愛も溺るゝ事長ふが如きもあ
まゝに時々薄靴はくへいもむるあゝ
成長もあゝの博愛能酒成事とて
中も争嚷成るゝ人成勒指く自らの功方と
壁障近の婦女強者一備を随順ぐおバ成
してはを嚇的もあゝ成と掛で十の路中

たて出くもあゝ輕の脚めり踢汚辱成あゝ
とゞも衆が極悪も害怖りてくおを制とて
あゝいゝぶつゝ極悪成專りあゝ一日賭局
かゝ争嚷とあゝて人成傷るゝにら知縣と成
御傳と圍圍も囚成りて律中らるゝ
教とあゝるゝ六四圍の居候もあゝ上成
河川の濤巻ふゝり昔董舗も長程の雙刀
成とゝもあゝ女筒雙刀成挿り浪士の白も
四下成横成り一人あゝ入るゝ強褌と衆と
盤纏とあゝて京成るゝ保山富の先成



小虫が練磨のる裡ぬあはきりれ猿眼あひひやく
あひひ黒く只競思ふて叫喚するは族擁有人
よ一奇な聲はくあつて喉は満腔快活く屯が我
爾は補替少る中へ進まむひひのらんをわ
るよあまを止むはけ去らんま改むらんぞ
知縣の衙門は詳さんと云ふ中は四中央若くあつり
今ら後をけはむはくしと顔と旅遣うは頭を
抱いて嵐嵐的く踊るるはく相まぬ渠を
後宇治の中は遭際出身はあつるが平幸市の怨恨と
いふあつしと中と那里の人とわらわらとせし

あつた一時祇園の祠廟の前やう清人合々うはひ
小藏面郎もまゐる進細道見ゆ小屯も顧眄ては
るる進尋思に渠うはひよあま其居處遠る
すど今をわらわら怒は後ぶるる文彦下らと平
頭よ分けて你那すあつた跟随看ゆりて回るる
はくはく回能はくしと云ふ玉頭を命は受く屯のあ
つた跟随看つる小室あつたまを重八があつた
平頭は回つてまはは教若くまは進人をまはし
打聽は渠山寄は高居するまは姓名まはく詳細
探聽はあつた若あつた顔は我知縣の任にあまは



その多敷車の勢と棄て其後家より母親妹とを
ばへ三個順流と掉とて浪華のつとて致したる大
進治の白屯が此等一老景代聴ありとて慎悔
しんを差して赴くもとるが如く却洗屯と浪
華にありけり玉の寺院の僧も己に人ありきとは
箇寺中に安頓するに箇僧の如く管待の如く
周済するに堀江の辺にて管房をとり母子妹三
個ありて後極て吾學劍法と稱へぬ水の孝長
と稱へるが這次に浪華の地仁徳帝の田越ふ
とて古鄙せしる老景やも屋舎も稀疎ありし

後世の如く興頭此境ありて成まて武技は學んで着
しと希なりとておまんとて負ありて朝夕の始末
も縁なり故老景たるに母母親負老の被傍か
か重衣病患し深く湯薬後も見つて成まて老
育るに屯妹とて物禱の下成りて成まて老病
とて一神子禱佛ふたのむとて定むる人命懸り
や其とてもたしく修しむとて身するに老兄妹の
悲傷りふらなりとてとても果ざる事なれば
僧氏結して阿彌陀池の和光寺とて一個の雲場へ葬
りてとてなりとてむら子申ひる二個のこゝろ

性あるこそぞとて

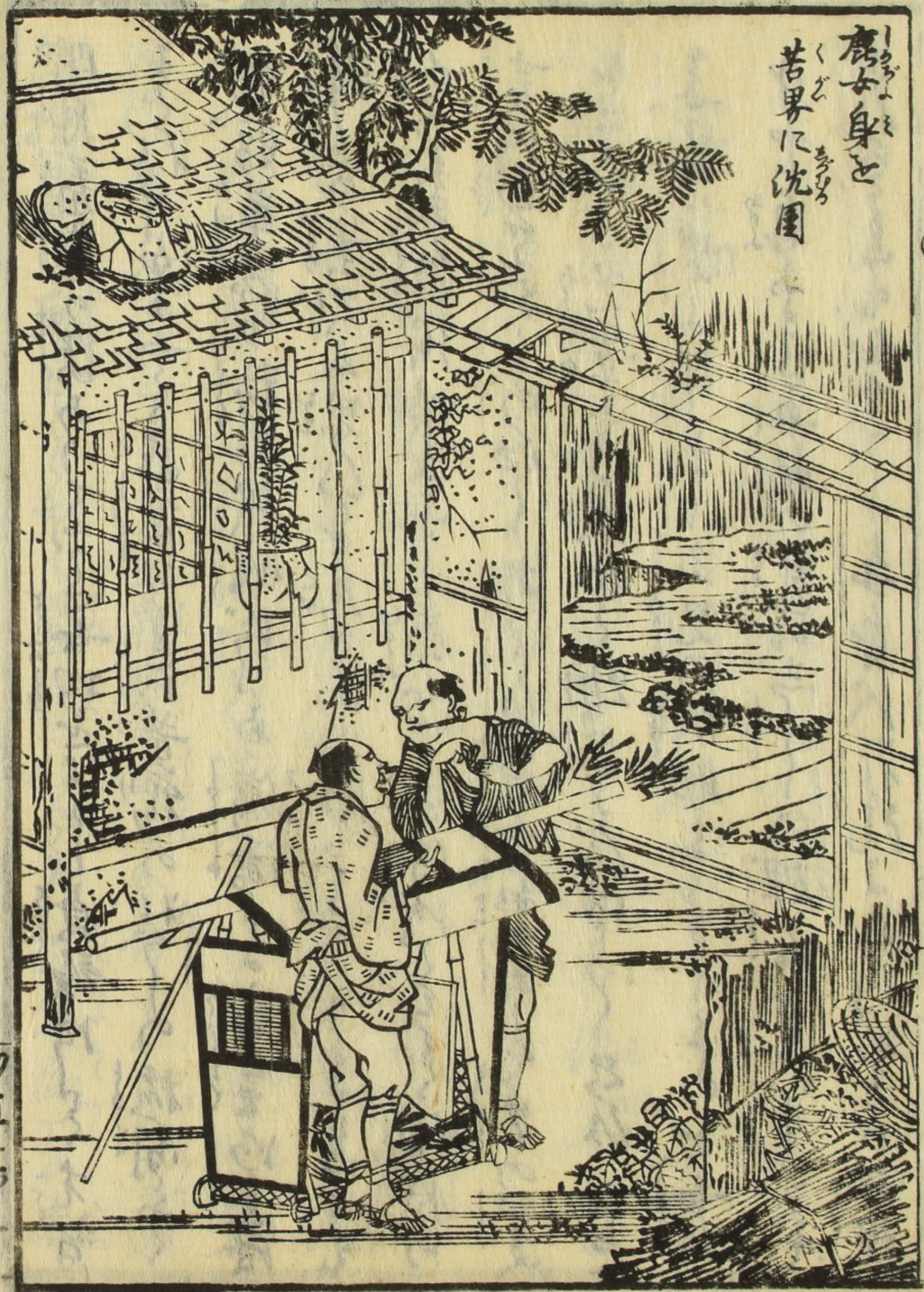
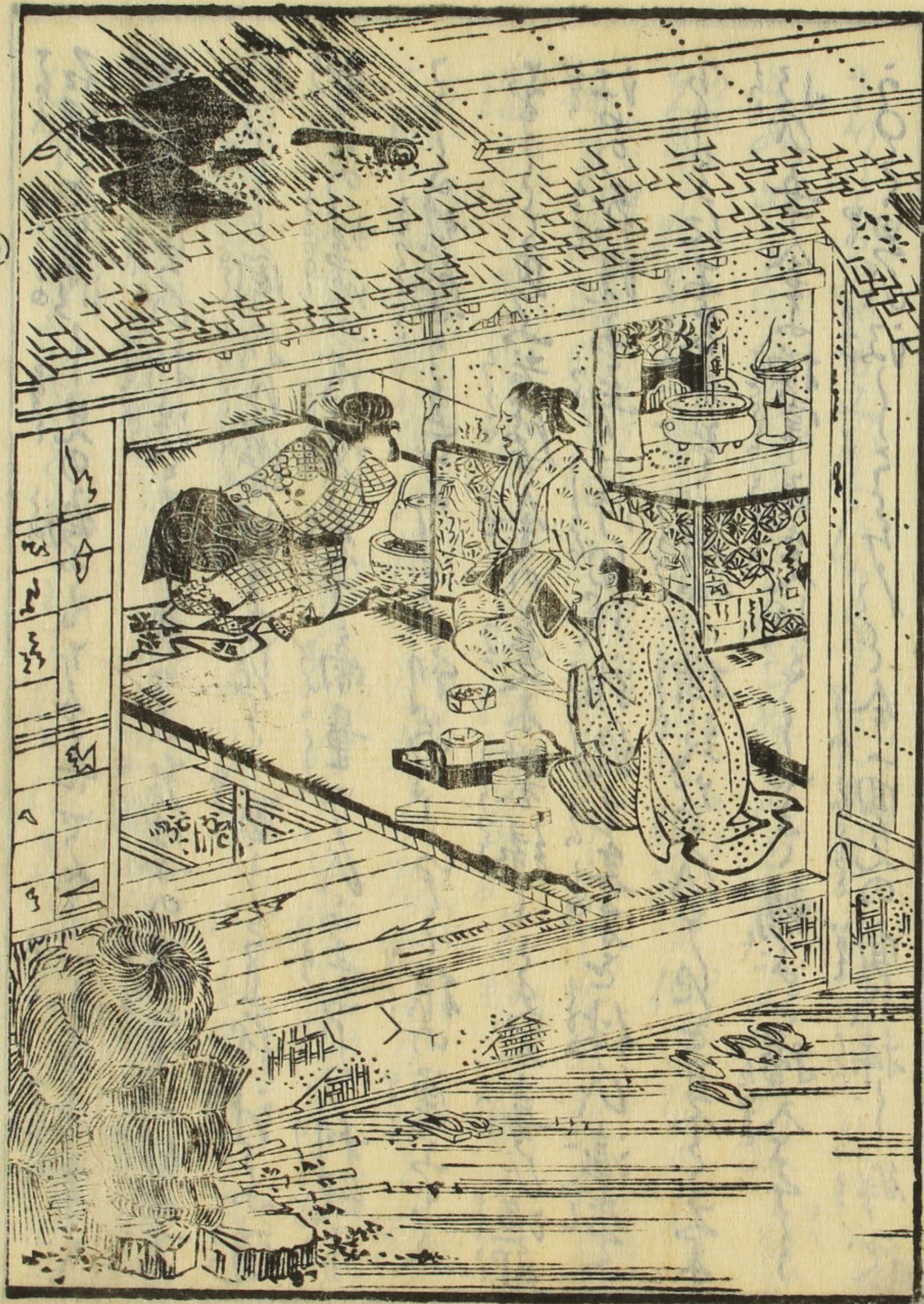
孝女典身救兄難

義夫指財報師恩

第十四

却説色兄妹と母親の喪に居り、佛事作善とて
して冥福成満する日、後の世に生るるに釋
眼とも過ぬらざらありて、今日の世に去つ孫衣涙の
こころも、こころにけりて、古人の言に、業の成るも涙
あり、只朝暮二個頭、涙に泣く泣く、箇妹も名
以、所縁とて、ひそひそと、十四歳髪漸く、烏雲か
ぶ、控眉目画、こころも、こころに、沈魚、魚丁の容

閉月羞花の姿ありて、女功とて、貞静に、才智
とて、女ましく、家自、黄楊の根、の根、の根、の根、
咽、情華、粉の粉、以、代、代、代、代、代、代、代、代、
澤、辺の、堂、火、ぬ、思、い、を、焦、や、る、も、も、も、も、も、も、
その、氣、を、お、代、代、代、代、代、代、代、代、代、代、代、
言、代、代、代、代、代、代、代、代、代、代、代、代、代、代、
と、か、や、る、光、景、と、て、代、代、代、代、代、代、代、代、
ま、が、身、男、か、よ、く、ま、が、兄、の、恨、助、あ、ま、ま、と、女、
身、を、思、お、ま、る、母、親、の、墓、の、ま、ま、の、碑、石、を、も、ま、ま、と、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、



つひのちあることあらば...
てはうり...
こゝろ...
毛も...
慰抚に...
と花街の...
とて...
とて...
より...
千思万想...

渠が志の... 母親の...
一個...
経道...
や...
て...
行...
う...
あ...
と...



お敢てこそは受ば今個娃子の身代と賤くんのもの隨即花
院より賤典身の高湯とやら小個本客才の金八と親
き漢子かまは雅雀も我々の金函なども老爺の面も
吾らはさうさうと金五兩も賤典身の高湯とやら
くみ金八と花院も使わぬこと誰かぬとあり
面もゆゆ半金と表物と金五兩なりと進い金
う賤典身の勤静又雅楽介と座くつひり我は元面接
待しと悪女の手勢と雅楽助と悪女の能此悲痛
報であつたやと大急ぎして没法僧鳥氣紙とて狼心
毒子とさしあぐる箇金八も雅雀も紙の紙に伴ひ回つて

物草太郎

あつたおの款待し渾家よお付て日夜陪付とありめ
雅楽助と鴨湯とつと聞し小個両親も見く自己水人
とけり赤繩のつとつと漢子も雅楽助の母も雅雀
が羽子梅の女も禰も自己のつとつと家系賤の
づの代間又金八が高貴子親も義気の漢子も師の娃子
聞し大急ぎ各すん贖回し雅楽介と枕嬢とあんとを
断し行状と感づるは免く逐本雅雀と迎雅楽介と四
親はさうめ

物草太郎卷之五終

